

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用

学び方を自己選択させる（個別最適な学びへ）

4月の社会科の授業風景（写真上）である。授業の中に個別最適な学びをどのように位置付けるのか、日々考え実践を行なってきた。知識を教え込むというスタイルから、生徒自身が好きなタイミングで情報にアクセスし、多様な情報源を基にして協働的に課題に向かっていく姿になるための授業を目指した。夏休み以降の授業風景（写真中、下）である。Webページや教科書、資料集など多様なリソースにアクセスし自分の考えを伝え合い、練り上げていく姿へと変わってきている。

他の教科でも、初めは「教師の指示でタブレット端末を使わせる」という状態であったが、次第に生徒自身の好きなタイミングでタブレット端末を使用するようになってきている。Teamsで配信された情報や協働編集したエクセルデータなど、生徒にとって必要な情報にアクセスする習慣が身に付いてきている。

課題は「Webページにある説明や誰かの回答をコピー＆ペーストして終わってしまう課題設定になっていないか」ということである。情報にアクセスし自己の考えをもち、仲間と話し合い、練り上げていく中で、自分なりの答えを見付け出しアウトプットしていく過程を目指していきたい。課題の設定、学習形態の自己選択、学ぶ環境の整備など課題はたくさんあるが、もっと「子供に委ねてみる」ことで生徒の変容を見取りたい。「教師がマインドセットを変えること」と「子供が教わるから自ら学ぶというマインドセットの転換をすること」を同時に行っていく必要がある。



4月の授業風景



クラウドに保存したまとめや他のグループの考えを参照していたり、教科書から情報を得たりしている様子

